

大学の世界展開力強化事業（平成23年度採択）事後評価結果表

大 学 名	九州大学
整理番号	A-I-9
事 業 名	エネルギー環境理工学グローバル人材育成のための大学院協働教育プログラム

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価) A	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を概ね満たしており、事業目的は実現された。
<p>(コメント)</p> <p>交流プログラムの枠組みについては、エネルギー環境理工学国際コースを設置し、1セメスターの留学と3大学連携サマースクールへの参加、国際学術セミナーへの参加と修士論文の提出によって日中韓3大学のうち2つの大学からダブルディグリーを授与するチャレンジングなプログラムを順調に完成させたことは評価できる。</p> <p>質の保証を伴った、魅力的な大学間交流の枠組み形成については、ダブルディグリーを可能にするための様々な取組を着実に実施したのみならず、カリキュラムの構築、サマープログラムの活用、E-ラーニングの導入など実質的な枠組みが形成された。</p> <p>外国人学生の受入の環境整備については、韓国語と中国語を母語とする特定プロジェクト教員を配するキャンパスアジアオフィスが中心的な役割を担い、きちんとしたサポートが行われた。日本人学生の派遣のための環境整備についても、留学開始時には学生にプロジェクト教員が同行し、生活の立ち上げに必要な手続きを先方のスタッフと共に行うなど、サポートが手厚く行われた。</p> <p>事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及については、英語での授業も数多く開講され、大学院の国際化に大きく貢献した。ホームページのほか、シンポジウムやセミナーの開催も積極的に行われた。学生の英語力把握が不十分であるように見受けられるので、今後は英語力の把握と更なる向上のための有効な施策を実施することが望まれる。</p> <p>目標の達成状況については、ディマンディングなプログラムであるにも関わらず、合計50名もの学生がダブルディグリーを授与されていることは評価できる。サマースクールを実施し、目標を大幅に超える学生交流も実現できた。しかしながら、平成27年度の目標であるTOEIC 730点以上80%、650点以上100%には到達していない。近々、ぜひ目標に到達するように鋭意努力していただきたい。</p> <p>今後の展開及び我が国の大学教育のグローバル展開力の強化に対する貢献については、中国政府がまだジョイントディグリーを認めていないものの、それにかわる新しい枠組みを検討するとありぜひ期待したい。また、本事業は大変優れたモデルとして、今後も学内外の刺激となるようこのプロセスや内容を具体的に広報して頂きたいと願う。</p>	